



申24 25号

2016年度 賃金引き上げ等 夏季手当

に関する申し入れ
春闘交渉
スタート!

組合 ベアに格差をつけることに反対!!

- 2015年度第3四半期決算の単体では、営業収益 15,533 億円（対前年比 105.2%）営業利益 3,764 億円（対前年比 113.4%）経常利益 3,366 億円（対前年 115.1%）とビジネス、訪日外国人増や観光需要が高まった結果、前年同時を大きく向上。
- 増収増益の記録的更新は、よほどのアクシデントがない限り、堅調基調は揺るぎないものに推移していくと確信している。ベアを回答する条件は整っている。
- 3年連続の「官製春闘」と揶揄されているが、JR東労組は「賃金は労使議論で決定する」考えは変わらない。「組合員の利益を第一に政党の支配介入を許さない」。
- 新幹線高架大規模改修を2031年度から10年間で10,406億円かけるが、投資できるのは現場組合員の頑張りがあった結果。
- 所定昇給額を算出基礎にしたベースアップ反対。職制・職責への処遇は、すでに反映されている。

満額回答を強く要請!!

会社

- ◆「官民対話」を通じてベアに対して強い期待がされている。しかし、新賃金、夏季手当は総額人件費として会社経営に与える影響が大きい。また、賃金と夏季手当は性格を異にしており、中長期的経営環境を留意する必要がある。
- ◆今期のベア交渉は昨年、一昨年と明らかに異なる様相。社会情勢は全く無視できない。
- ◆経済動向は2月例報告にて「一部弱さがあるが、ゆるやかな回復基調にある。」
- ◆昨年10月～12月期GDP成長率は2四半期ぶりマイナス成長。景気停滞鮮明
- ◆27年度の実質経済成長率は0.4%増。政府が目指す年2%にひらきがあり、1.2%見込み達成も厳しい状況。中国経済の減速、原油安など、日本経済の先行きに関しては金融資本市場の厳しさと不透明感強めている。
- ◆第3四半期決算は、北陸新幹線の開業効果もあり4期連続の増収・増益だが、一方、営業費は人件費や修繕費増で対前年316億円増。営業収益が大きく伸びたが、営業利益が増加することになってはいない。会社の置かれた状況の認識は必要。
- ◆安全対策費用増で物件費の増加。対前年446億円上昇の見込み。高架落下物対策、軌道パット飛散対策箇所は次年度も継続。営業費用増は注視していく。
- ◆ベアに関しては、「職責に応じ、納得感、公平感、分かりやすさが前提という会社の考え方」は変わっていない。速やかな合意に向け議論して行く。

格差ベア反対! 全組合員の団結力で、満額回答を勝ち取ろう!